

ペット研究会 12年間の活動成果を踏まえた住まいガイド
ノマDOで実現する「ひととペットも健康に暮らせる家」
～ひととペットも自然の一員です。～



旭化成ホームズ株式会社 暮らしノベーション研究所



はじめに：ペット共生の新たな視点『ひとつもペットも自然の一員』..... 4

- 1. ペット共生住宅「プラスわん・プラスにゃん」の変遷 4
- 2. 『ペットと住居環境調査』の概要 5
- 3. 12年間の研究活動から見てきたこと：長い人生を過ごす仲間だから、ペットの健康が重要に 5
 - 1) ペットへの関心・心配は「健康」「病気」 5
 - 2) ペットにも「生活習慣病」が増加 6
 - 3) 減らない「ペット医療費」、高まる「ペット医療保険」への関心 6

ペット共生住宅の新テーマ：ペットが健康に暮らすには『ノマDOが大事』..... 7

- 1. オーナーの考えるペットにとって心地よい環境とは？ 7
 - 1) 「自分（ペット）の居場所がある」ことが、犬・猫共通のTOP 7
 - 2) 犬は「通風がよい」「家族と過ごせる」、猫は「日当たりがよい」「家の中を自由に動き回れる」ことが重要 7
- 2. ペットの行動から見える心地よい環境とは？ 8
 - ペットの行動に見る心地よい環境のキーワードは「隠れ家」と「(家族や屋外との) つながり」 8
- 3. 居心地の良い複数の場をノマDOできる家がペットが健康に暮らせる家 9

ペットが健康に暮らせる家で実現すること：ペットの健康によい家は『ひとつにもよい家』..... 10

- 1. ペットにとって今の家の問題点は？ 10
 - 1) 今の家（環境）の問題点は「外に連れだせない（行けない）」「運動できない」こと 10
 - 2) 留守時の配慮は夏場の「空調」に関することが多い 11
 - 3) 約4割の人が「多い」と回答、水道光熱費だって結構かかる 11
 - 4) 冬場の寒さ対策は「設備」に頼らない方が半数近くいる 12
 - 5) 問題解決のヒントは「設備に頼り切らない」家のあり方にある 12
 - 6) ペットの健康によい家は『ひとつにもよい家』 13
 - 7) ペットの健康によい家は『省エネにもつながる』 13

ペット共生住宅の新提案：ノマDOで実現する『ひとつもペットも健康に暮らせる家』..... 14

- 1. 季節や時間に合わせた居場所をつくり「室内にもっと自然の刺激を取り入れましょう」 14
 - 1) ペットのために通風と日差しなどの温熱を配慮 14
 - 2) 床材多種使いコーディネート：ペットのための温熱環境を支援 15
- 2. 気分に合わせた居場所をつくり「ペットの寛ぎと運動を促しましょう」 15
 - 1) 犬間・猫間の拡充（室内飼い支援） 15
 - 2) 犬のお散歩支援 18
 - 3) 内猫の屋内運動支援 18
- 3. 問題を解決する『ノマDOできる』プラン例 19
 - 設備に頼り切らない屋内環境の実現と運動の支援で、ペットの健康を守る 19

はじめに

ペット共生の新たな視点 『ひともペットも自然の一員』

- 旭化成ホームズ株式会社では、1998年にペット研究会を発足し、ペットと暮らす家の研究を始めました。その成果として2000年にペット共生住宅『プラスわん・プラスにゃん』を発表し、「ペットは家族の一員」という言葉の火付け役となりました。また、2003年には「ペットも社会の一員」という考えから、ペットを飼っていない人たちからも愛される家づくりを発表しました。これらは、多くのメディアに取り上げられ、世の中のペット共生住宅の牽引的役割を担ってきました。
- ペット研究を始めて10年以上の歳月が経過しました。その間、ペットを取り巻く環境は変化しています。ペット可マンションの普及率は80パーセントを超え、ペットを飼いたい人はペットを飼うことが当たり前前の時代になってきました。更に、10年前は数%だった猫の室内飼いが80%を超え、多くのペットが室内で飼われるようになっています。
- このような実情を踏まえて、ペットと家のあり方の今後の視点を考えてみました。

1. ペット共生住宅「プラスわん・プラスにゃん」の変遷

1) ペットは家族の一員 (2000年10月)

- 業界初のペット共生住宅「ヘーベルハウス プラスわん・プラスにゃん」を発売。「ペットは家族の一員」と位置づけ、「ペットとその家族がふれあいやすい設計手法」「ペットが暮しやすい設計手法と仕様」「ペットの世話がしやすい工夫のある設備・仕様」「近隣へ配慮した設計手法」など、ペットにも住み手にも健康で快適に暮しやすく、ふれあいやすい住まいを提案しました。

(<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/news/2000/ho001004.html>)



キャットウォーク
高いところが好きな猫の居場所



マルチガーデンバン
お散歩帰りに犬の足を洗ったりするお湯の出るガーデンバン



ペットスルーサッシ
猫が出入りできる扉があるサッシ



床暖房対応室内用タイル
ペットが歩く時に滑りにくい

2) ペットも社会の一員 (2003年8月)

- ペット共生社会の進展に合わせ「ペットも社会の一員」と位置づけ、「プラスわん・プラスにゃん」をリニューアル。犬との共生では来訪者が迷惑や不安を感じない「来訪者配慮型ペット共生住宅」を、猫との共生では猫を家の中で飼うことで近隣に迷惑をかけない、また猫も外の環境に触れられる「家ネコ支援型ペット共生住宅」を提案しました。

(<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/news/2003/ho030805.html>)



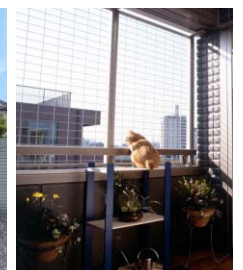
フェンスドア
ペットが勝手に玄関に飛び出さない



マナーシュート
持ち帰った散歩時の糞を処理する



ニャングルジム
ペットスルーサッシに付ける内猫の遊び場

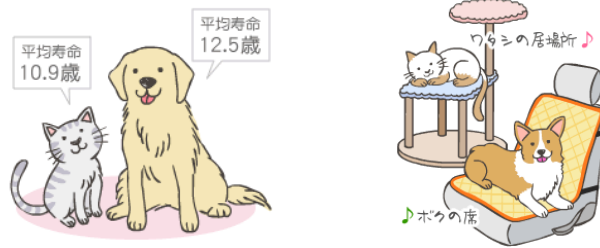


ペット転落防止フェンス
ベランダで遊んでも外に飛び出す危険を無くす

3) ひととペットも自然の一員 (2011年5月)

・ペットの長寿化と屋内飼育化が進み、人生の中でペットとともに暮らす時間が増える中、ペットの長寿化に伴う衰弱や疾患、屋内飼育化による運動不足や、過食による生活習慣病など、飼い主の新たな関心事が明らかになってきました。この状況を踏まえ、ペット共生型賃貸住宅商品「ヘーベルメゾン プラスわん・プラスにゃん」のリニューアル発売に合わせて、人より自然に近く自然との関係が深いペットにとって、心地よい環境・健康に過ごせる家を目指すと同時に、ペットにとっても住まい手にとっても良い家を目指し「屋外の自然をより享受できる家」を提案しました。

(<http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/news/2011/ho110527.html>)



2. 『ペットと住居環境調査』の概要

1) 調査目的

・ペット（内犬・内猫）と住居環境の実態※を把握するために『ペットと住居環境調査』を行いました。
 ※：ペットの居住環境についてペットオーナーはどのような意識を持ち、具体的にはどのような対策をとっているのか。

2) 調査対象者

・内犬・内猫（屋内で飼われる犬・猫）を飼う全国の男女2690人から有効回答を得ました。
 ・その2690人を平成20年総務省人口構成でウェイトバック集計し、合計2712人分のデータとして扱いました。

	～20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	188	222	215	295	223	1143
女性	236	312	296	466	260	1569
						2712人

3) 調査手法

・インターネット調査

4) 調査期間

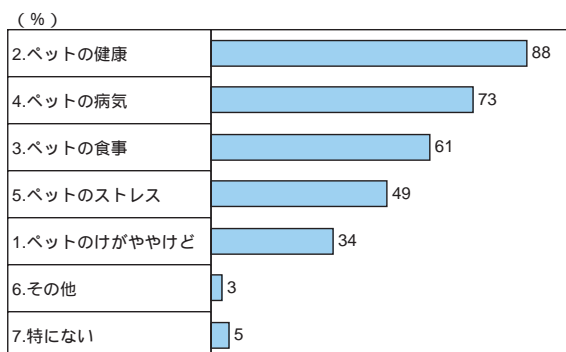
・平成20年10月31日～11月4日

3. 12年間の研究活動から見てきたこと：長い人生を過ごす仲間だから、ペットの健康が重要に

1) ペットへの関心・心配は「健康」「病気」

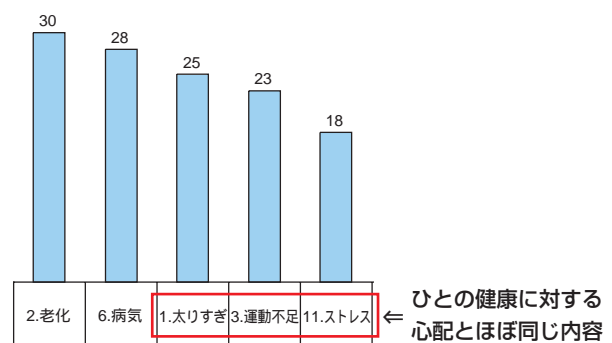
・今回の「ペットと住居環境調査」の結果から見てきたのは、ペットオーナーの「ペットの健康」に対する意識の高まりです。心配事については、「太りすぎ」「運動不足」「ストレス」など、現代のひとが抱える問題とほぼ同じ結果となりました。

◆ペットへの関心



出典：ペットと住居環境 調査より抜粋

◆ペットの健康に関して心配なこと (TOP5)



出典：ペットと住居環境 調査より抜粋

2) ペットにも「生活習慣病」が増加

- ・「ペットと住居環境調査」とは別に、ペット研究会では平成21年4月より「マンスリーペット調査」を行ってきました。この調査でペットの病気について、過去と将来の心配を各々聞いてみたところ、過去の病気が「特にない」と答えた方は内犬で42%、内猫で48%。ともに5割以上のペットが過去に何らかの病気を経験しています。
- ・また、将来心配な病気が「特にない」と答えた方は内犬で31%、内猫で32%。7割近い方がペットの病気を心配しています。具体的には、内犬・内猫共通で「肥満」「循環器障害」が、また内犬では「関節炎」、内猫では「虫歯・歯周病」や「消化器系障害」などが、将来心配な病気として挙げられています。
- ・ペットを家族として大切に飼う人が増えたことや、獣医療の高度化によるペットの長寿化の結果、ペットにも人とほぼ同じ、癌、生活習慣病（肝臓、心臓、糖尿）、痴呆、白内障などの病気が増えているという報告があります。老化に関わる病気は致し方ないとしても、室内飼いの増加による運動不足やストレスに関わる「肥満」「循環器障害」などについては、対処ではなく予防の観点からの家づくりが今後ますます大事になってくると思われます。

◆ペットの病気（これまでかかったものと将来の心配）



出典：くらしノバージョン研究所 マンスリーペット調査 第4回-1「ペットの健康」（平成21年6月）より抜粋

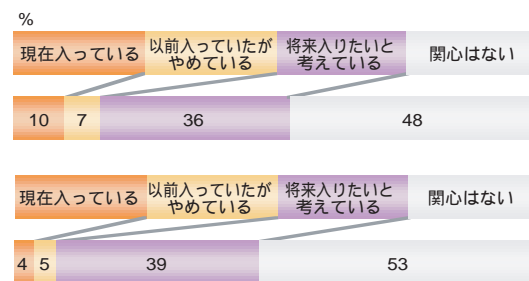
3) 減らない「ペット医療費」、高まる「ペット医療保険」への関心

- ・ここ3～4年でペットの医療費が減少傾向にあるのはわずか1割に満たないほどで、ほぼ7割の人が変わらず、逆に約2割強の方が増加傾向にあると回答しています。また、ペットの長寿命化が進む中で、約4割の人がペットの医療保険に加入している・加入を考えていると回答しています。
- ・医療費の現状と将来についても、人間と同じような現実を抱えていることが分かりました。

◆ペットの医療費の変化



◆ペットの医療保険



出典：くらしノバージョン研究所 マンスリーペット調査 第4回-3「ペットの健康管理」（平成21年6月）より抜粋

ペットが健康に暮らすには『ノマDOが大事』

- ・「ノマDO」とは、ペットが屋内の環境のよい場所を求めてその「場」に移動する「ネコの行動」と飼い主たちとのコミュニケーションを求めて居場所を決める「イヌの行動」の総称（NOMAD（遊牧民）とDO（行動）を合体させた造語）です。広義には、ペットが行う散歩や屋内運動などのからだを動かす行為も含んでいます。
- ・「ノマDO」は、ペットにとって心地よい環境、ペットが健康に過ごせる家を、オーナーの視点とペットの行動の視点から考えたときに浮かび上がった新たなテーマです。ペットが健康に暮らすには、ペットにとって居心地良い場所があり、ペットが「ノマDO」できる家であることが大切です。

1. オーナーの考えるペットにとって心地よい環境とは？

1) 「自分（ペット）の居場所がある」ことが、犬・猫共通のTOP

- ・オーナーの考えるペットの健康に良い住宅の条件は「自分（ペット）の居場所がある」が犬・猫共通のTOPでした。ペットを家族の一員から、人生をとともに歩むパートナーとして、より「ひと化」して捉えている様子が分かります。

◆ペットオーナーが思うペットの健康によい住宅

(内犬)

6.自分の居場所がある	77
2.通風がよい	66
14.家族と過ごせるスペースがある	66
5.家の中を自由に動ける	63
1.日当たりがよい	61
11.トイレの場所が決まっている	58
12.走れる、運動できるスペースがある	55
20.空気が汚れていない	41
13.玩具、遊び道具がある	41
7.隠れ家のような寝る場所がある	37
8.外(界)を眺められる場所がある	37
9.外気に触れられる場所がある	34
4.有害物質を含む内装材が使われていない	34
17.自然のままに冷暖房をきかせすぎない	24
10.外(界)に行ける	21
3.壁・床の断熱に優れている	18
18.人工的に冷暖房をコントロールする	17
19.適度な照明になっている	15
16.一匹だけ置いて出掛けない	14
15.一匹ではなく複数で飼う	12
21.その他	1
22.わからない	3

(内猫)

79.6.自分の居場所がある	
75.5.家の中を自由に動ける	
73.11.トイレの場所が決まっている	
70.1.日当たりがよい	
68.12.走れる、運動できるスペースがある	
61.7.隠れ家のような寝る場所がある	
61.2.通風がよい	
55.8.外(界)を眺められる場所がある	
52.14.家族と過ごせるスペースがある	
41.13.玩具、遊び道具がある	
41.9.外気に触れられる場所がある	
35.20.空気が汚れていない	
32.4.有害物質を含む内装材が使われていない	
24.15.一匹ではなく複数で飼う	
23.17.自然のままに冷暖房をきかせすぎない	
17.10.外(界)に行ける	
14.19.適度な照明になっている	
14.3.壁・床の断熱に優れている	
13.18.人工的に冷暖房をコントロールする	
10.16.一匹だけ置いて出掛けない	
1.21.その他	
4.22.わからない	

出典：ペットと住居環境調査より抜粋

2) 犬は「通風がよい」「家族と過ごせる」、猫は「日当たりがよい」「家の中を自由に動き回れる」ことが重要

- ・アンケート結果から、犬と猫の居場所について、具体的な特徴（TOP3まで）を見てみましょう。

①内犬は「通風がよい」「家族と過ごせる」ことが重要なポイント

- ・「通風がよい」ことが2番目に挙げられました。種族的なルーツとして犬が「北方出身で暑さが苦手」な特性を持っていることに対応した結果です。
- ・3番目には、犬の集団性を反映して、「家族と過ごせるスペース」が挙げられました。



②内猫は「日当たりがよい」「家の中を自由に動き回れる」ことが重要なポイント

- ・猫では屋内の移動に関する内容「家の中を自由に動ける」「走れる、運動できるスペースがある」が犬より高くなっています。猫の自由気ままな性格を反映した結果です。また、「外を眺められる場所」があることも犬より高くなっています。
- ・「日当たりがよい」ことが犬より高いのは、猫の祖先が「南方出身で寒さが苦手」なことの影響です。



2. ペットの行動から見える心地よい環境とは？

■ ペットの行動に見る心地よい環境のキーワードは「隠れ家」と「(家族や屋外との) つながり」

- ・ ペットにも同じ質問を直接聞いてみたいところですが無理なお話し。そこで、アンケート（実際のペットの様子）から心地よい環境（ペットが過ごすことの多かった場所）を分析してみたところ、それは「寝る」「遊ぶ」「いる」（「いる」の関連で「甘える」「来る」=コミュニケーションする）ための場所と、「外」とのつながりのある場所でした。
- ・ 内犬と内猫の居場所の特徴を各々見てみましょう。

①内犬は「寝られる」「傍に居られる」「ゴロゴロできる」場所が重要なポイント

- ・ 犬の集団性を反映して、「傍に居られる場所」が挙げられました。

◆ ペット（内犬）が居心地良さそうにしているのは、どんな場所？

- ・ 夕食のときは私の隣に寝るが寝ると夏は涼しいところ、冬はリビングのソファペットの下にもぐりこんで寝ている。夜は冬場は私の布団にもぐりこんで寄り添って寝ている
- ・ 1日1回、3回居るのですが庭で遊ばせます。また、3頭の中で一番甘ったれでいつも誰かしにくっついて過ごしています。
- ・ お腹を上に向けて白目をむいて、散歩に行っている夢を見ている（足を時々動かす笑）
- ・ 駐車場の車と自転車が見え、外出した家族の帰りを待っている。家族が傍に居るときはそのままくっついて寝る事が多い。
- ・ 7歳になり行動も静かになった感じです。お気に入りのおもちゃを持って来たりして、遊びをせがんだり、ボール遊びが大好きです。
- ・ 布団で過ごす。リビングで外を見るみんながいると私のまわり 家族のそばに居る
- ・ 部屋では息子と一緒に、起きてる時は遊んであげて、一人の時は今は毛布ですが(夏はタオルケット)で母親のおっぱいを吸って居る感じが口に加えて吸ってます。私たちがその現場を見つけたら恥ずかしそうにします
- ・ 外界の動きに敏感、自分を持っているが、人間とのかわわりをとても大事にしている
- ・ 私の仕事が終わる日はたいがい私の横にくっついて寝ている。そして私が他の部屋に行くときは必ずついてきてまた私の横にくっついて寝ている。それに飽きたら外が見えるソファの背もたれの上に乗って外を眺めているかと思えば、おもちゃで急に遊びだしたりする。
- ・ 2匹とも常に寄り添っている甘えん坊です。私がお酒を作るときは夜美の好物ジャッキーを買えば、私について回っています。
- ・ リビングでは、ソファか犬用クッションの上、あるいは日当たりのよい床で寝ていることが多いが、時々そばに来てじゅる。
- ・ 私が家で仕事をしている時は、何時までも大人しく寝ていてくれますし、家事をしている時は、高いソファの上に乗って、目の高さを同じにしています。
- ・ 私が2階からおりるとき、後をくっついてくることもあれば、そのまま動かずにいるときもある。
- ・ 老犬ということもあり、ゲーグの中ではほとんど寝ている。昼間は庭でたっぷり運動。
- ・ 座椅子が自分のくつろぎの場所になっていて気持ちよさそうにいつもそこに居る
- ・ 食べたり、寝ている以外で、何かして欲しい自分の要求がある時は、お座りをしてじっと私を見つめて訴えている。外に出たい時扉のそばで、じっと私を見つめている。仕事で帰ってあげられない時、まるで哲学者のようにじっと電子戸から外を見て、仕事が終わるのを待っている。
- ・ 腹はいいなって家族の動向を見ているが、面白いことがあると途端に走り回る
- ・ いつもお気に入りの窓から外を眺めています。郵便配達のパイプを見かけると必ず吠えて玄関まで走っていきます。
- ・ 暑いと涼しい所に移動してそこで寝て居る。涼しいと暖かい所に移動してそこで寝て居る。ベッドの中で寝るか、起きたらじゅるしてくる。
- ・ 時々窓から外を見ている。毛づくろいしたり、ぬいぐるみをかんだりしている。そばよって来て触ってほしいときは、前足をあげたりして動かす。
- ・ 今はコンピュータデスクの下で居眠り。一寸の動きでも敏感に反応するので、一々「トイレに行くよ」とか「ご飯に行くよ」「お仕事だよ」と断らなければ成らない。階段は上れるが降りられないので階下へ行く時はダコをせがむ。
- ・ 病気で目が見えないうえに、いつも決まった、自分の落ち着く場所で寝ている。最近では、家の中を動き回ることもしなくなり、1日で起きている時間は、食事、トイレの時だけである。
- ・ 一人遊びに飽きたら足にじゅるついて靴下を奪って得意そうに逃げる。構ってほしい時のサインらしい。
- ・ もう老犬なので、ほとんど寝ている。お気に入りの毛布の中に鼻を突っ込みながら入ってきて、誰か家族が毛布の中に入ってくるまで首を上げて待っている。どんな時も、自分の子供と思っているおもちゃを衔えているかお腹のところに隠している。
- ・ 一人と一匹暮らしなので、MOMOも自由気ままに過ごしている。お腹を上にして大きいびきをかいて熟睡している場面も時々見かけたりして…。MOMOにとっても、わたしにとっても、お互いがけがえのない家族である。
- ・ もう10歳過ぎるので以前より静かになっている事が多いが気が向けば私が動くと一緒に家の中で追いかけて遊ぼう！
- ・ 昼間は好きな場所で のんびり寝て居るが夕方から夜になると 私のそばに来て膝の上に乗って静かにしてたりそばにくっついておとなしくしている
- ・ 何時も傍に居て動くとすぐに着いて来るし、座るとじっとその場所から動かない。
- ・ 家族が何かしてる時はひなたぼっこしたり、庭で遊んで居るが、TV、本でも読むものなら、「遊んで〜」とオモチャ、ボールを持って来る。何回か、「寝ろ！」と言った事がある。
- ・ いつも夫婦の動きを目で追っていて、出かける仕度始めると毒舌のようになって、わざわざしどす。
- ・ 何かない限りはゴロゴロしている。誰か家に帰ってくるとピョンピョン飛びついてだっこをせがむ
- ・ 寝るときは私たちの寝室に専用のベッドを置いてあげて居るが、夜中になるとベッドにあがってきて、寝ている。特に寒い日は主人と私の間のお布団の上でぐくぐく寝ている。
- ・ たまに寄ってきたりするが、触ろうとすると嫌がる。基本的に「ほっといてくれ」という感じ。
- ・ 一日中、自分の気に入った場所で寝ている。家族が帰ってくるのが来たらうろうろする。
- ・ 3人家族なので3人の寝ているところをまわっている。あとはイスの下で寝ている
- ・ 寝ているが、自分のお気に入りのぬいぐるみをくわえてうろうろしていることが多い。

出典：ペットと住居環境 調査より抜粋



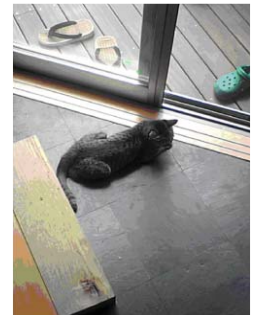
みんなの
そばに
いたいな…

②内猫は「外が見られる」「遊べる」「寝られる」場所が重要なポイント

・猫の自由気ままな性格がよく表われています。

◆ペット（内猫）が居心地良さそうにしているのは、どんな場所？

- ・昼寝、毛づくろい。おなかや空いたりのどが温いたり外に出たくなるとそばに来て催促。
- ・朝は外の小鸟と遊びかけっこし、昼はマイペースで熟睡。夜は遊び道具を使ってじゃれて、人間と一緒に睡眠です。
- ・ソファやハウスの中にいるときは、毛づくろいをして居るが寝ている。ベランダに出ているときはまずゴロンゴロンして落ち着いたら外を眺めている。夜は夏場は布団の上で寝るか枕の上で寝るが、寒くなると布団の中に入ってきて両手を私の肩の上に寄せ、顔を枕の上に乗せて寝る。キーちゃんとかついで寝ているので暖かいと感ぜられます。
- ・いつも窓の近くで外を見ているが、私の傍にっついて甘えている感じで、静かにしていたかと思うと、急に動き出しておもちゃでじゃれている
- ・キャットタワーの上で外を見ながらじっとしてたり、PC用のイス(クッションあり)の上を占領して、仰向けになって寝ている。
- ・いつも私のそばで寝ている。またはお水が欲しいとかトイレが汚れているときは知らせにくるし、おしっこやウンチをしたときはごはんを食べてきたときも報告にくるので驚かす。
- ・一匹でいざときはおもちゃで遊んでいるが、部屋中飛び回っていることが多いのですが、人がいると傍に寄ってきて、遊んでもらいたがっています。
- ・仕事から帰ると必ずお迎えに来る。這っけられるのが好きなので、這っけさせてやるが喜ぶ。テレビを見たり、パソコンを操作すると膝に乗ってきて甘える。
- ・自分のケージやソファの上やいたるところで寝たり遊んだりして、時々外を見るために台所の出窓やお風呂場の出窓和式の出窓のところへ駆けて行って、じっと外を眺めていて、鳥が来ると『キ・キ』といったり、よその猫が来ると『うーっ』と鳴いたりしているが、2匹の猫は仲良くしてはいるが、おしっこやウンチをしたときはごはんを食べてきたときも報告にくるので驚かす。
- ・あまえんぼうで抱っこをせがみますのでしばしばお話ししながら抱っこしてあげるとその後は自由にしています。トイレが汚れると直ぐに知らせてくれますので「ハイハイ」教えてくれたのね、ありがとう。と褒めてあげます。トイレをきれいにしてある所をじっと見えています。(私が見られている感じがです。)
- ・もう、あまり動き回る事もなく、トイレと食事、時々気分転換のための外を眺める事以外はハウスで静かに暮らしている
- ・自分のペットでは気持ちよそに寝ている。外に出たがる時は屋上に出すと、一番目の高い高台で、ひなたぼっこをしている。
- ・眠い時は寝ているが、そばに行くと寝た声かきかかるとゴロゴロお腹を出して喜ぶ。
- ・いつも自分の気に入った所(キャットタワーのハンモックなど)で寝ていることが多いが、時々もう1頭と一緒に遊んで駆け回っている
- ・基本的には、人間が見える場所にはいます。いつもこっちを見つめます。一日に3回くらい、同居の猫約者がわたしのひだの上に乗りにきます。
- ・いつも窓の近くで外を見ているが、私の傍にっついて甘えている感じで、静かにしていたかと思うと、急に動き出しておもちゃでじゃれている
- ・寝ている時は寝るがゴロゴロ言う。窓際にいる時は、鳥の様子を眺めてケケケケ言っている。
- ・猫タワーの上から、寝ていないときはいつも私たち飼い主を見ている。わたしたちが動くと、それを目でおいながら、ごはんやおやつやおもちゃでの遊び、などの予感があると、うげげと猫独特の泣き声をしながら、一瞬で降りてきて甘える。
- ・南向きの部屋の窓際には大きな木があって、よく鳥が遊びに来ている姿が見える為に見つけた時は大喜び。鳥がいない時は、柵包用のビニールひもがお気に入り、ひもで遊べど後を付いて来る。
- ・いつも窓の近くで外的小鸟を眺め、野良猫がくるのを待っている。私がテーブルに座ると傍にっついて甘え足りじっと見つめている。私達が食事をしていても決して食べ物や強請らないのがいじらしくもあり、育てるのが楽だ。
- ・家中もぎの遊び場もくつろぐところもあり、その日によっているるな場所を遊んでくつろいでいる。遊んでほしいときは自分から誘ってくる。人間がむぎとじゃれたときは名前をよぶとどんでくる。
- ・玄関底での様子はわかりません。戸外の台の上では、気持ちよそに日にあたまを。自分の寝床の中では、寝たり、毛繕いをしています。布団では、寝てばかりです。
- ・おもちゃでの遊びをせがみ、一緒に遊んでいざ夢中になって遊ぶのだが、急に廊下へ直進し、食事したり、トイレにいったりする。
- ・もう老齢なので、あまり動き回る事はなくなりましたが、トイレに行きたい時やご飯が欲しい時は甘えて話しかけてきます。
- ・とくに冬場はひたすら寝る感じ。殆ど起きていない。食事とトイレ以外は寝ていて感じ。逆に夏は涼しい場所を求めて涼しい場所で寝ている事が多い。年齢が年齢だけに今後が心配。
- ・自分の好きな場所や自分の好きなことをしているのでもりやかに過ごしているように思う
- ・殆ど一日寝ている。餌の時にトイレの時に呼びに来る。自宅に人が居るときは庭でトイレをして、しばらく遊ぶが、留守の時にはトイレでおしっこをする。うんちは必ず外でしている。人がテレビを見ているときは必ず膝の上に乗ってくる。
- ・おはあちゃんにべったりで、常に付いて回っている。猫があんなに人に近づけるのは見たことがない
- ・家族の帰宅後はとにかく甘えるが、夜はずっと寝ているので、日中部屋でもぐもぐ遊んでいるのかな? と思っている。
- ・おむね静かにしている。我々が出かけようとするときは無知して様子を見に来る。
- ・窓が大好きでベランダからみんなを見ている。むぎに乗ってホントに可愛い可愛いのでどけてしまおうと悲しそうに私を見る
- ・歳をとったので、寝ている事多い。起きている時は私のひだの上にいることが多い。
- ・安心して寝ているようでそばに行ってもあまり反応しないが名前を呼ぶと起き上がる。
- ・たいてい一人で気ままに過ごしている。たまにわたしのひだに甘えに来る

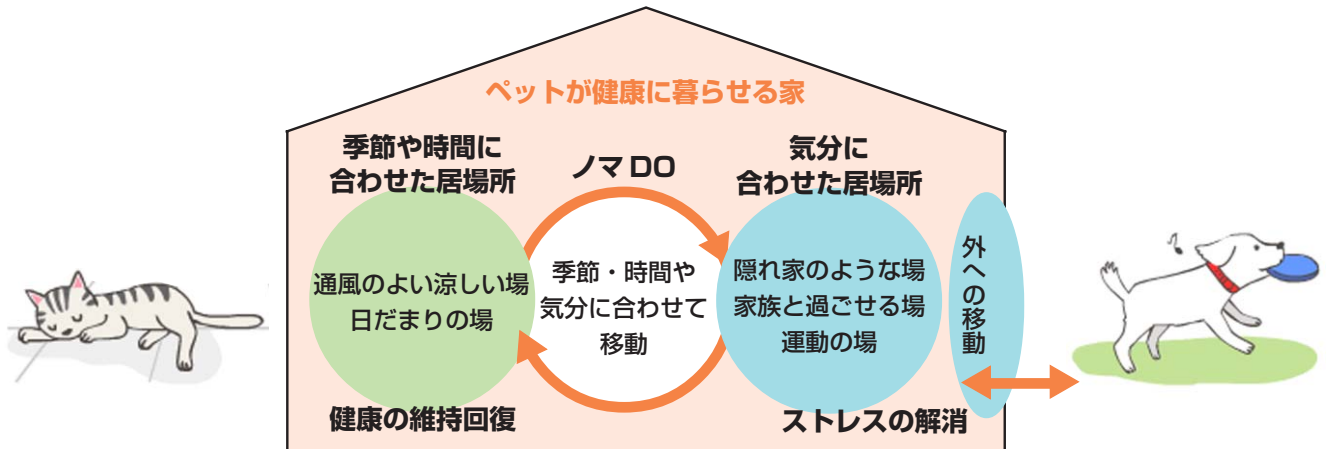


出典：ペットと住居環境 調査より抜粋

3. 居心地の良い複数の場をノマDOできる家がペットが健康に暮らせる家

・以上の調査・分析より、ペットが好む複数の場（風通しがよく涼しい場・日だまりが暖かい場・隠れ家のような場・家族と一緒に過ごす場・運動の場など）があり、季節・時間・気分に合わせて自由に移動（ノマDO）できる家が、ペットの健康によい家と考えます。

◆ペットが健康に暮らせる家の条件



ペットが健康に暮らせる家で実現すること

ペットの健康によい家は『ひとつにもよい家』

- ・ペットオーナーのペットへの関心・心配は「健康」「病気」。これは現代のひとが抱える健康上の心配ごとと一致しています。
- ・一方、ひとの健康上の問題として、運動不足やストレスによる太りすぎ、また、空調機による温度変化の少ない環境での生活により、自身の体温調節ができない変温動物化した子供が増えていることなどが言われていますが、室内飼いが8割を超えるとも言われるペットの住環境の中でも同じことが起きている可能性は高いと思われます。
- ・ひととペットも同様に抱える住環境の問題点を解決することは、ペットはもちろん、ひとにとっても健康で心地よい家の実現につながると考えます。

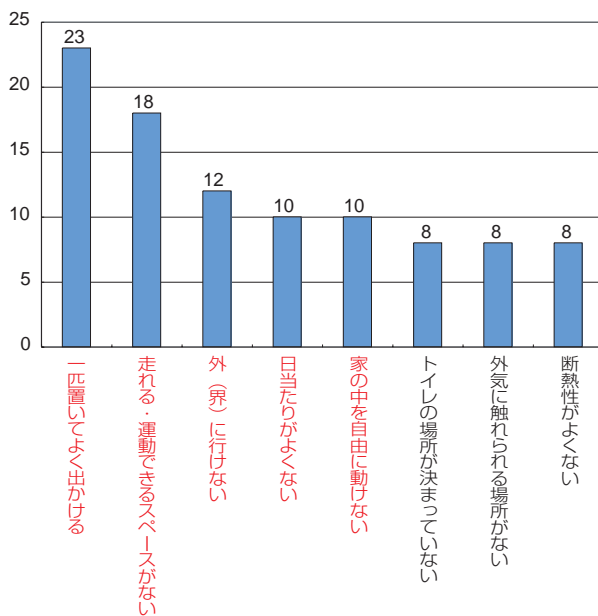
1. ペットにとって今の家の問題点は？

1) 今の家（環境）の問題点は「外に連れだせない（行けない）」「運動できない」こと

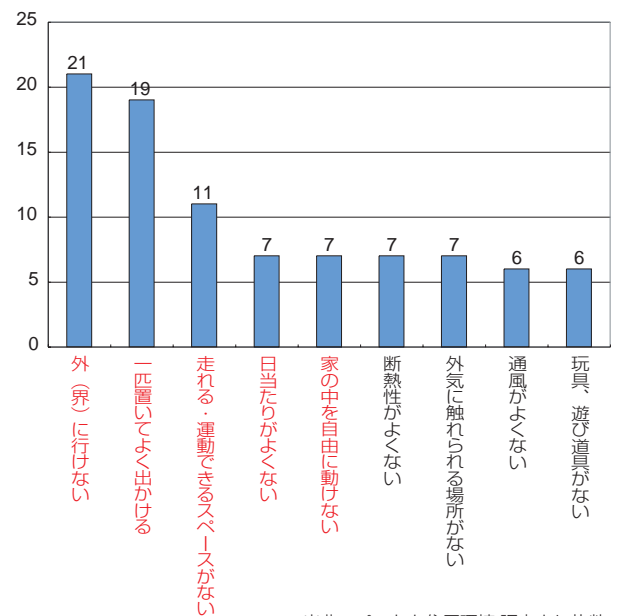
- ・犬猫とも「1匹置いてよく出かける」「外（界）に行けない」「走れる、運動できるスペースがない」「日当たりがよくない」「家の中を自由に動けない」ことが問題点として多く挙げられました。他には「断熱性がよくない」「外気に触れられる場所がない」ことなども挙げられています。
- ・ペットにとっての家（環境）も、「運動不足」や「自然の刺激が少ない」ことが問題になっているようです。

◆ペットにとっての今の家（環境）の問題点

(内犬)



(内猫)



出典：ペットと住居環境 調査より抜粋



ボクも一緒に
出かけたかったな…

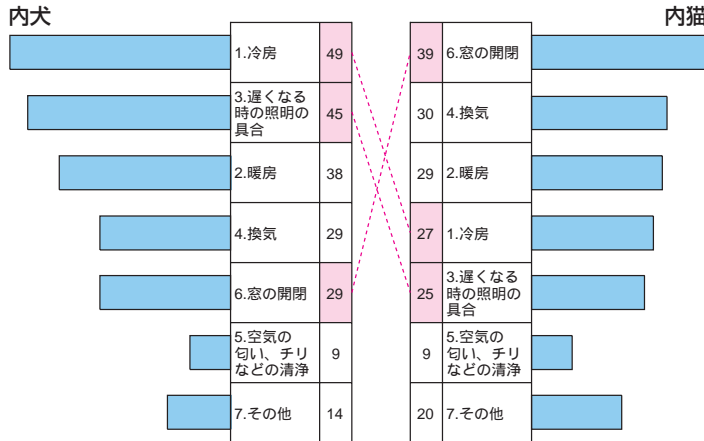


外に出たい
出たい出たいー！

2) 留守時の配慮は夏場の「空調」に関することが多い

- ・ペットと一緒に外出できないことが多いペットオーナー、留守時の配慮は「冷房」「換気」など夏場の空調に関することが多く挙げられました。
- ・犬は「冷房」がトップ、6割前後の人がエアコンをつけていきます。暑さが苦手な犬への配慮です。また「照明」の配慮が猫より高くなっており、家族の傍で過ごしたい犬が寂しがらないようにとの配慮が見えます。
- ・猫は「窓の開閉」「換気」が高く、「暖房」「冷房」を上回りました。

◆ペットに対して留守時に配慮していること（少し長時間（5～6時間）外出の場合）

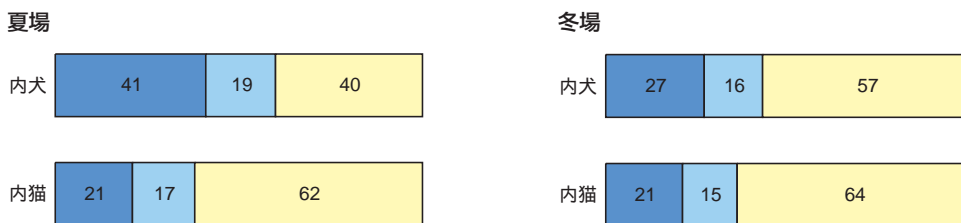


出典：ペットと住居環境 調査より抜粋



- ・留守時のエアコン使用について見てみると、犬は冬場に比較して夏場が多くなっています。これは前述の「北方出身で暑さが苦手」な犬の特性と関係していると思われます。一方、猫については夏・冬ともエアコンをつけていく人は少なくなっています。夏に関しては猫が「南方出身」であること、冬については「ネコは勝手に暖かいところを探すから」という声もありました。猫の行動には省エネにつながるヒントが隠されています。

◆留守時のエアコン使用状況（少し長時間（5～6時間）外出の場合）



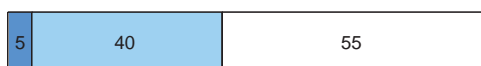
■つけていく □タイマーで数時間設定 □つけていかない

出典：ペットと住居環境 調査より抜粋

3) 約4割の人が「多い」と回答、水道光熱費だって結構かかる

- ・外出時の空調費も含めた水道光熱費、約半数の人がペットがいることで余分にかかる水道光熱費があると答えています。また、ペットにかかる費用全体として、約4割の人は「多い」と感じているようです。

◆ペットに余分に水道光熱費がかかっているか



■かなりかかっている □少しかかっている □かかっていない

出典：ペットと住居環境 調査より抜粋

◆ペットにかかる費用の程度

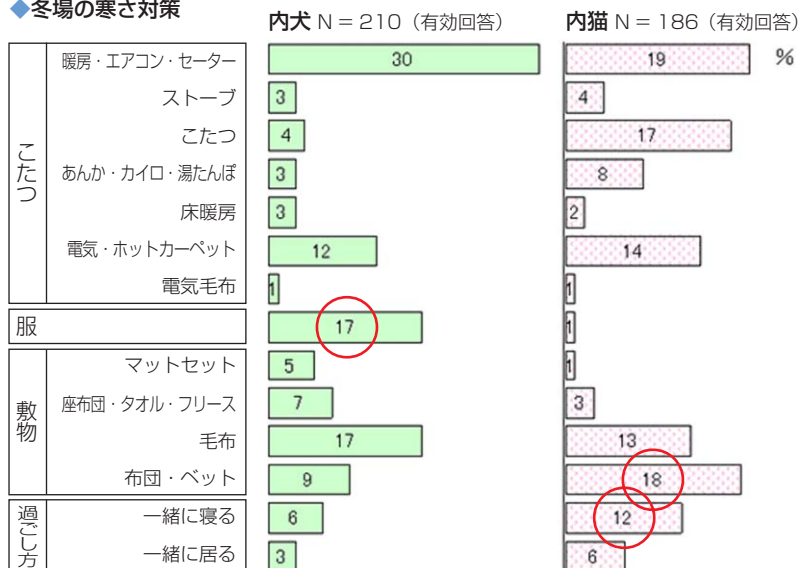


■多いと思う □丁度良い □少ないと思う

4) 冬の寒さ対策は「設備」に頼らない方が半数近くいる

・エアコン使用が少なめであった冬の寒さ対策について調べてみると、暖房・エアコン、ホットカーペットなどの設備中心の方以外に、猫では「布団や毛布にもぐる」ことや、飼い主と「一緒に寝ている」姿がうかがえ、犬では「服を着せる」が多くなっているなど、犬・猫とも設備に頼らない派の方が半数近くいらっしゃるということが分かりました。

◆冬の寒さ対策



出典：くらしノベーション研究所 マンスリーペット調査 第1回-3「寒さ対策の工夫」（平成21年3月）より抜粋

5) 問題解決のヒントは「設備に頼り切らない」家のあり方にある

・ペットが、走れる・運動できるスペースがない・家の中を自由に動けない環境で「運動不足になっている」ことや、夏場は空調に頼る環境で「自然の刺激が少くなっている」ことが分かりました。一方、冬場は設備に頼らずに暮らしているペットが半数近くいることも分かりました。

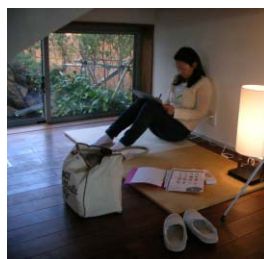
・健康面はもちろん、省エネの視点からも設備に頼り切らない家のあり方が、現状の問題を解決するヒントとなり、今後のペットとの住まい方のポイントになりそうです。

6) ペットの健康によい家は『ひとにもよい家』

- ・自然の風や光を採り入れた心地よい居場所、室内で運動ができる居場所、飼い主の傍に入られる居場所など、家の中に複数の場が生まれると、ペットが屋内の環境のよい場所を求めて移動する「ネコの行動」や、飼い主たちとのコミュニケーションを求めて居場所を決める「イヌの行動」が促進され、ペットは季節や時間帯、気分に合わせて居場所を選び移動します（ノマDO）。自然の刺激があり、適度な運動もできる環境は、ペットの運動不足やストレスを軽減し、ペットが健康に暮らすことができる環境です。
- ・ノマDOに配慮した家づくりは、ペットの健康だけでなく、ひとの健康にも良い影響を生み出します。ひとは暑さを感じると汗をかくことで自然に体温を調節します。これは、ひとが健康を保つために持っている《内なる自然のリズム》で、この調節機能は風や日射など《外なる自然のリズム》に刺激されることで活発に働きます。《内なる自然のリズム》と《外なる自然のリズム》が協調してこそ、健康な暮らしが送れるのです。
- ・朝日を浴びながら朝食をとったり、涼しい緑のカーテンの下で読書をしたり、自然の変化や刺激を受け自然との係わり合いを楽しめる居場所をノマDOできる家。ペットの健康によい家は、私たちひとにとってもよい家なのです。



リビング階段（踊り場）



リビング階段下



土間



床上げ

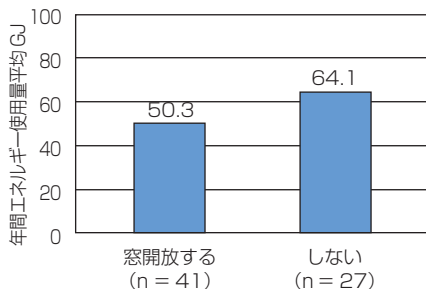


そりゃドッグ
いやグッド
ニュースだワン

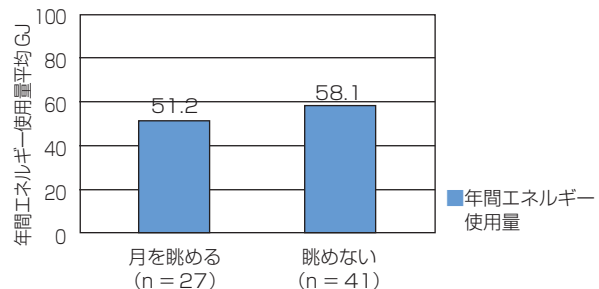
7) ペットの健康によい家は『省エネにもつながる』

- ・自然の変化や刺激をバランスよく取り入れられる家は、ペットやひとの「健康」だけでなく「省エネ」にもつながります。
- ・自然の変化や刺激を取り入れた家では、家人の「自然との係わり合いを楽しむ住まい方」「自然に親しむ暮らし」が促進されます。そして、そのような暮らし方は年間消費エネルギーが少ないことが分かっています。
(富士市にある旭化成ホームズ住宅総合技術研究所の実証実験やヘーベリアン調査の検証により確認しています。)

◆暑い時には窓を開ける家庭の方が、年間エネルギー使用量が少ない。(窓開放行動とエネルギー使用量の関係)



◆自然に親しむ暮らしをする家庭の方が、年間エネルギー使用量が少ない。(月を眺める行動とエネルギー使用量の関係)



ノマDOで実現する『ひともペットも健康に暮らせる家』

- ・「1.季節や時間に合わせた居場所」と「2.気分に合わせた居場所」をつくることで、「ノマDO」を促し、ひともペットも健康に暮らす家を実現します。

1. 季節や時間に合わせた居場所をつくり

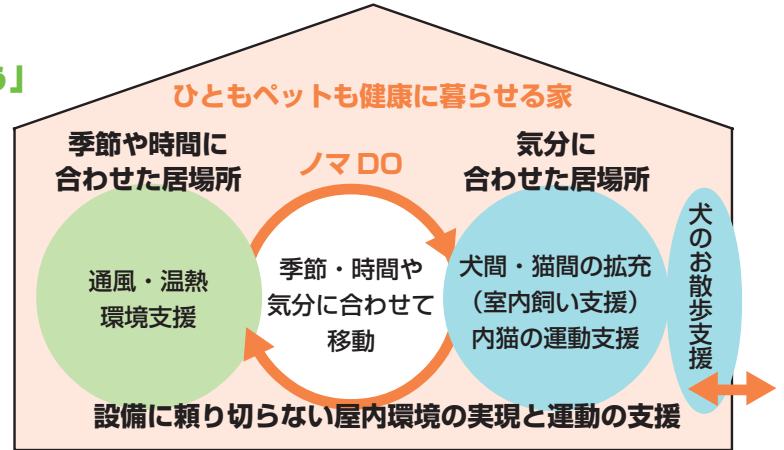
「室内にもっと自然の刺激を取り入れましょう」

- ・ 通風設計と温熱設計
- ・ 熱伝導率がことなる床材のバリエーション設計

2. 気分に合わせた居場所をつくり

「ペットの寛ぎと運動を促しましょう」

- ・ 「犬間」「猫間」の拡充（室内飼い支援）
- ・ 犬のお散歩支援
- ・ 内猫の屋内行動支援



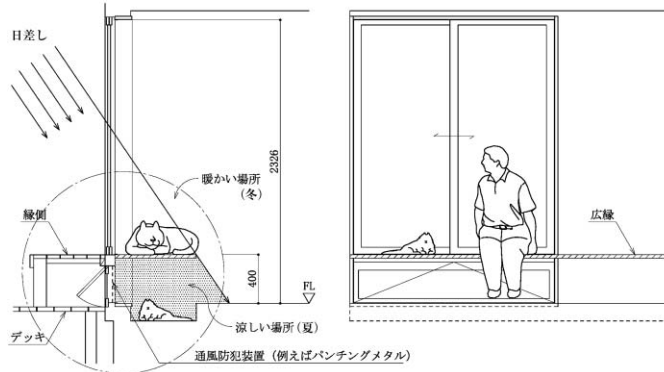
1. 季節や時間に合わせた居場所をつくり「室内にもっと自然の刺激を取り入れましょう」

1) ペットのために通風と日差しなどの温熱を配慮

①室内縁側と、防犯通風窓・防犯通風スクリーン

- ・ パンチングメタルで窓開放時の防犯とペットの逃げ出しを防ぎ、広縁家具との組み合わせによってペットの居場所をつくります。（住まい手にとっては、夜間の開放・ちょっとした外出時の開放による換気・通風を図る窓や窓専用部品です。）
- ・ ペットを留守番させる時にこれらのアイテムがあれば、窓を開けたまま外出できるので、夏場は特に有効です。
- ・ 日の当る場所に縁側のようなペットの居場所をつくりましょう。寒い日でも日差しが入ればペットにとって温かく居心地のよい場になります。

◆室内縁側



◆防犯通風窓・防犯通風スクリーン



防犯通風窓（ランマにパンチングメタルが入っていて網戸も兼ねる：開発中）



防犯通風スクリーン（面格子の代わりにパンチングメタルで防犯性を確保）



②その他、通風環境をよくするためのアイテム



ジャングルジム
ペットスルーサッシに
付ける内猫の遊び場



ペット転落防止フェンス
ベランダで遊んでも外に飛び
出す危険を無くす



窓ネット
通風の為に窓を開けていても
ペットが網戸にいたずらした
り外に逃げることを防止



ベルトウィンドウ
ちょっとした外出の際にペットの
為に窓を開けていても、泥棒が侵入
できない大きさの窓

2) 床材多種使いコーディネート：ペットのための温熱環境を支援

・フローリング、タイル、絨毯、畳など、熱伝導率が異なる様々な床材を組み合わせ、夏にヒンヤリと心地よい場や、冬にヌクヌクと心地よい場をつくりましょう。



タイル



カーペット



フローリング

2. 気分に合わせた居場所をつくり『ペットの寛ぎと運動を促しましょう』

1) 犬間・猫間の拡充（室内飼い支援）

・通風・温熱設計に配慮したよりよい屋内環境に、犬の居場所・猫の居場所をしつらえましょう。

①犬間、猫間

・ペットにも一人になりたい時はあります。階段下のちょっとした空間を利用して、一人になりたい時や眠りたい時に安心して隠れられる潜み場をつくります。さらに通風にも配慮できると尚よい場所になります。



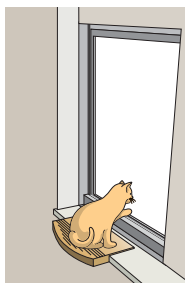
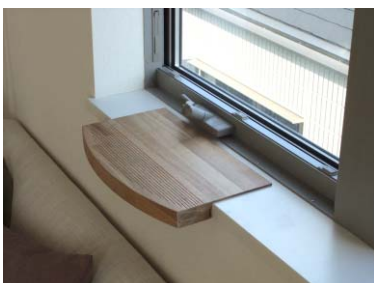
犬間



猫間

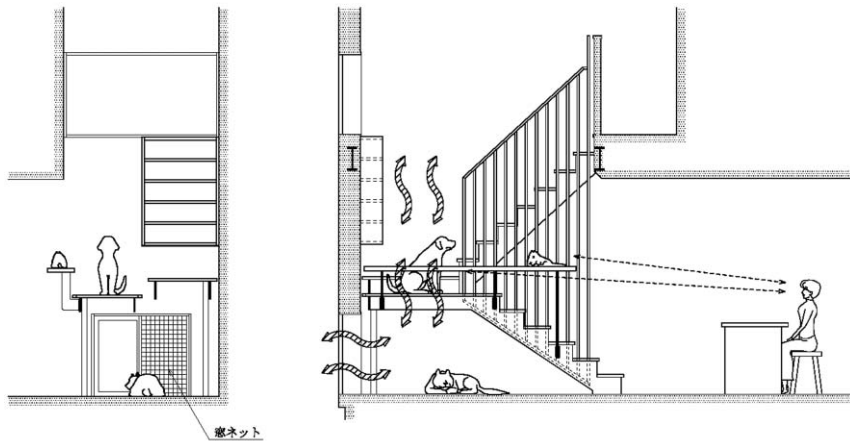
②キャットビュー

・外を眺めるのが好きな猫のための窓辺の居場所をつくります。



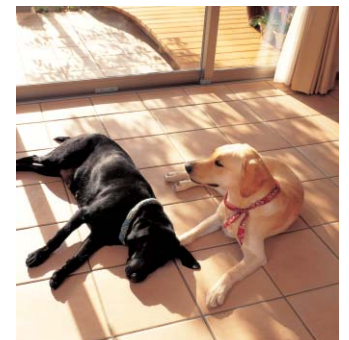
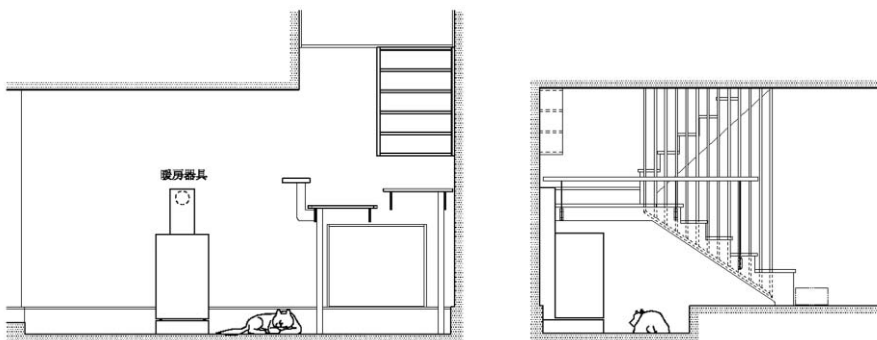
③リビング階段

- ・リビングから直接昇り降りするリビング階段があると、家人が上階の個室から出てリビングに居やすくなるのが、我々の調査で分かっています。その踊り場部分にペットの居場所をつくります。
- ・家族と一緒に過ごす場：家族の移動の場であるとともに、ちょっと腰かけたりすることのできる場でもあり、また、ペットがここに居ることによってペットとひとの視線の高さが近くなります。
- ・隠れ家のような場：階段下の空間を窓とセットで使うことにより、ペットにとって通風・日向・日陰の隠れ家となります。



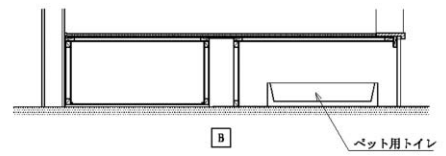
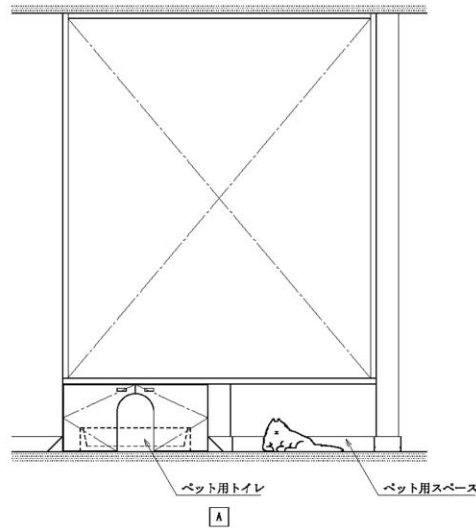
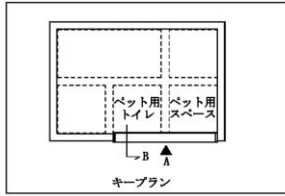
④土間

- ・土間付近の窓の大きさや位置、スダレなどを考慮することで、夏は日陰で床が冷たい、冬は日向で特にストーブがあれば尚暖かい、ペットの居場所となります。
- ・リビングの一画にあれば、ペットにとっていつも家人の気配を感じられる、よい居場所になります。



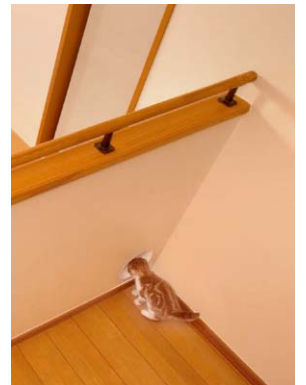
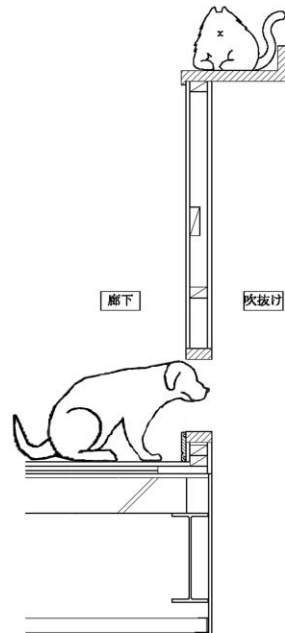
⑤床上げ

- ・リビングの一角を一段高い居室空間とし、下部空間を有効利用することで、猫が一人になれる隠れ家的な居場所が設けられます（一般的には収納などに使います）。上部は和室として利用したり、犬の居場所にもなります。
- ・リビングに隣接しているので、ペットにとっては家人と一緒に居られる場であり、家人にとっては気兼ねのないペットのトイレ置場になります。



⑥腰壁手摺やのぞき穴

- ・風の抜ける吹抜けに面した涼しいペットの居場所。猫が高いところから家の中を眺めたり、犬が家族の様子をのぞいて確かめたりできます。ちょっとした仕掛けでも好奇心の強いペットは充分に活用してくれます。



2) 犬のお散歩支援

・屋内で暮らすペットにとってお散歩は大切です。犬にとってお散歩は運動や排泄ばかりでなく、他の犬との出合いや縄張りなどを確かめる貴重な機会です。

①お出かけフック

・ドア脇に付ける屋外リードフックです。リードの動きに合わせてフック自体が左右に動きます。更にフックに過剰な力が働いたときに、壁が壊れたり、ペットの首が極端に絞められるような万が一のことを考えて、フックが下がりリードが外れるようになっています。買い物袋を一時的に吊るすこともできます。



②ペットのお散歩を支援するアイテム



マナーシュート
持ち帰った散歩時の糞を処理する

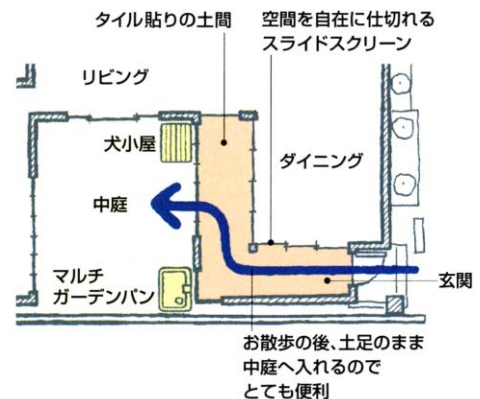
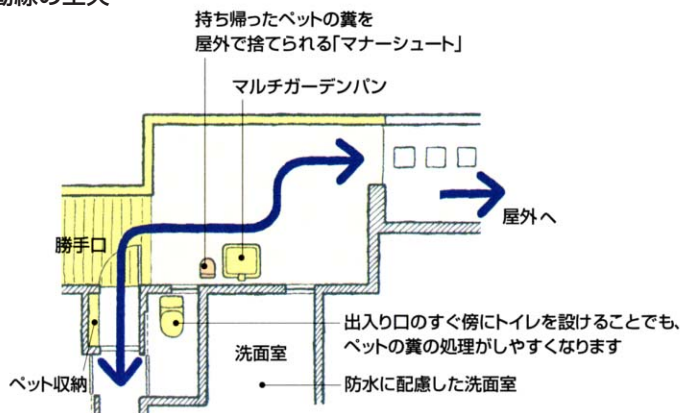


マルチガーデンパン
お散歩帰りに犬の足を洗ったりするお湯の出るガーデンパン



マルチシンク
小さいペットの脚や体を洗うことができる

③動線の工夫



3) 内猫の屋内運動支援

・ほとんどの猫は屋内で暮らす内猫です。家の中でも遊べ、外の環境に触れられることは大切です。

◆内猫の屋内での遊びや運動を支援するアイテム



キャットウォーク



ニャングルジム



猫棚



キャットタワー



3. 問題を解決する『ノマDOできる』プラン例

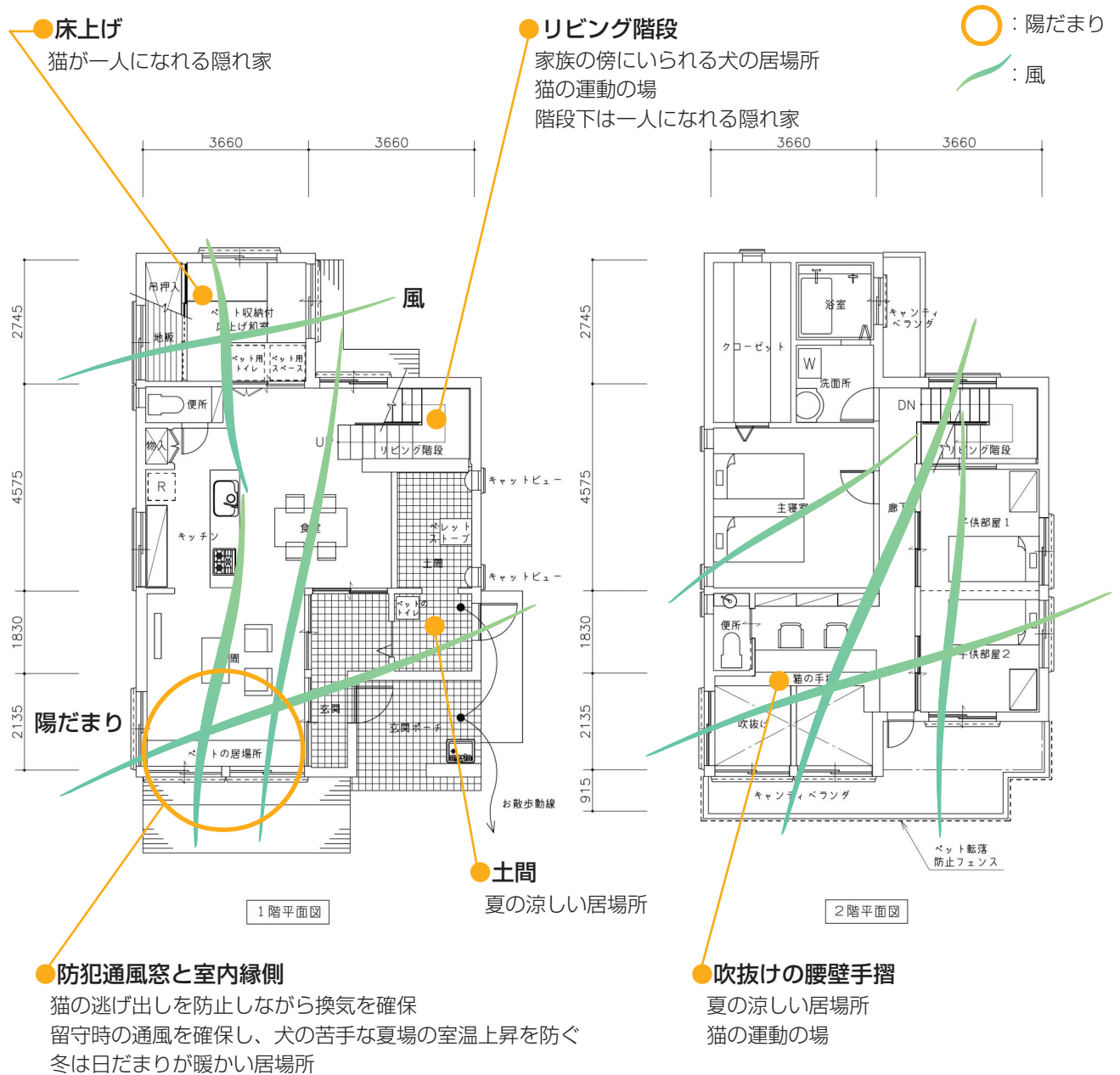
■ 設備に頼り切らない屋内環境の実現と運動の支援で、ペットの健康を守る

① 季節や時間に合わせた居場所の確保「もっと自然の刺激を取り入れる」

- ・ 吹抜け上部の開口と防犯通風窓で風の入口と出口を確保。夏の留守時の通風を促し、室温上昇を抑えます。

② 気分に合わせた居場所の確保「ペットの寛ぎと運動を促す」

- ・ 冬の陽だまり広縁家具や、夏にひんやり気持ちいい土間など、季節によって選べる居場所をつくります。
- ・ リビング階段下や床上げなどで、ペットが一人になれる隠れ家をつくります。
- ・ 間仕切のないオープンスペースや吹抜けの腰壁手摺、一部床下げなど、室内の運動スペースをつくります。





くらしノベーション研究所

ペット研究会 12年間の活動成果を踏まえた住まいガイド
ノマDOで実現する「ひととペットも健康に暮らせる家」
～ひととペットも自然の一員です～

旭化成ホームズ くらしノベーション研究所

発行 2011年7月15日
発行所 旭化成ホームズ株式会社

〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1
エステック情報ビル
電話 03-3344-7858
主幹研究員 村松 浩